

防災だより

～みんなで広める防災の環～

10月号の防災だよりでは、「避難所」について紹介しましたが、今月号はその続きです。

トイレ問題

避難所の運営で重要な課題の一つは、高齢者への配慮です。阪神・淡路大震災では、避難所で多くの高齢者が亡くなりました。このような形で亡くなることを「震災関連死」と呼び、主な原因は高血圧などの持病の悪化と肺炎でしたが、病気悪化の背後には高齢者の「トイレ問題」が潜んでいました。

熊本地震では地震そのものによる直接死が50人に対し、地震後に負傷の悪化や避難生活などにおける身体的負担によってその4倍以上の223人が亡くなっています（内閣府2019年4月12日現在）。

避難所ではトイレの数が著しく不足し、しかも仮設トイレは居住スペースから遠くに設置される事が多いです。このためトイレを頻繁に利用する高齢者は飲料水を控え、結果的に体調を崩してしまうこととなります。このような事態を回避するため、高齢者ができるだけトイレに行きやすい環境を整える必要があります。



図5 熊本地震での避難所に設置された仮設トイレ

新型コロナウイルス感染症対策

過去の大規模災害時において多くの避難所は「3密」を回避できず、中には通路に足の踏み場もないような避難所もあり、感染の防止が必須の今日では、避難所の部屋割り、対応について抜本的な見直しが必要となりました。

避難所で3密を回避するには①避難所、避難先を増やす、②避難所に避難する人を少なくする、③各避難所の感染防止の対応を行う、ということが必要です。

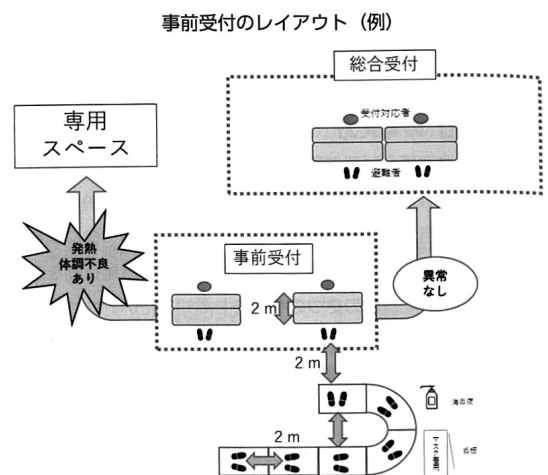
1. 在宅避難・分散避難の選択肢

耐震性に優れた家で家具類も固定してライフラインが停止しても1週間程度の備えがあり、ハザードマップ上、危険性が非常に少ない場合には、わざわざ住環境が好ましくない指定避難所に行く必要はありません。このような人を「在宅避難者」と呼び、行政は支援していくことになります。

自宅以外でも、親戚宅やホテル、旅館などで一定期間過ごす方法もあります。指定避難所よりも環境の良い場所を確保しておくことで分散避難が可能となります。

2. 事前受付の設置

避難所内の拡大防止には、一般避難者と体調不良者を同一エリアに収容しないこと（ゾーニング）が大切です。「事前受付」で避難者のチェックを行い、居住スペースを分け、それぞれが接触しないよう配慮します。また、出入り口にアルコール消毒液の設置や定期的な換気、人が触れる共有部分の消毒なども有効です。



※認定特定非営利法人日本防災士機構「防災士教本」より抜粋

【お問合せ】 総務課 管財係 担当：山口、竹内

防災クイズ

大規模災害が発生し断水した場合、トイレを使用禁止にすると同時に仮設トイレを設置しますが、初動対応時、設置数の目安は何人に対して1基としているでしょうか？

- ①10人
- ②25人
- ③50人

※答えは広報紙の最後のページで確認できます。